

2018年度 第2四半期 決算説明会資料

2018年11月15日

OKK株式会社

【免責事項】

本資料に含まれている計画や見直しには、主要市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。

目次



I. 会社概要

- 1 経営理念と経営ビジョン P1
- 2 Neo Challenge <中長期経営計画>の進捗 P2

II. 決算の概要

- 1 決算の概要 P3
- 2 売上高と受注高について P4
- 3 売上高・営業利益率の推移 P5
- 4 地域別売上高推移 P6
- 5 地域別受注高推移 P7
- 6 受注高の推移 P8
- 7 受注残高の推移 P9
- 8 業績予想 P10
- 9 2018年度第2四半期のトピックス P11
 - ・財務改革プロジェクト発足 P12
 - ・営業改革プロジェクト発足 P13
 - ・IMTS2018へ出展 P14
 - ・VB53 α 発表 P15

III. 決算の詳細

- 1 鉱工業生産指数と日工会 受注高の
関係(暦年) P16

- 2 鉱工業生産指数と日工会 内需との関
係(暦年) P17
- 3 営業利益 増減要因 P18
- 4 貸借対照表 P19
- 5 キャッシュ・フロー P20
- 6 棚卸資産推移 P21

➤ 経営理念

① 顧客第一

顧客の信頼と期待に応える品質とサービスを提供する。

② 社会的責任

地球環境と人類社会の調和と発展に貢献する。

③ 価値の提供

技術を革新し新しい価値を創造する。

➤ 経営ビジョン

次の100年に向けて、盤石な企業基盤を構築するとともに、安心と信頼に満ち、活気にあふれる企業を目指す。

I -2. Neo Challenge <中長期経営計画> の進捗

【計画期間】 2016年度～2025年度(10年間)

【テーマ】 **Innovation for next 100**

【方針】

計画期間	方針
ファーストステージ (2016年度～2019年度)	事業基盤の更なる強化と新事業への挑戦
セカンドステージ (2020年度～2022年度)	事業拡大への準備と実行
ファイナルステージ (2023年度～2025年度)	事業拡大し、盤石な企業基盤を構築

【各ステージの 到達目標値】	2018年度 第2四半期 実績値	ファーストステージ (2016年度～2019年度)	セカンドステージ (2020年度～2022年度)	ファイナルステージ (2023年度～2025年度)
売上高	11,839	30,000	40,000	50,000
営業利益	168	2,400	3,600	5,000
営業利益率	1.4%	8%	9%	10%
経常利益	251	2,250	3,400	4,820
親会社株主に帰属する 四半期純利益	203	1,570	2,275	3,220
株主資本合計	11,017	12,700	15,600	20,000
ROE(自己資本利益率)	1.9%	6.5%	8.1%	10.0%
配当性向	77.5%	20%以上	25%以上	30%以上

※但し、各ステージの目標値に到達した時点で、次のステージに移行するものとします。

(単位:百万円)

Ⅱ-1. 決算の概要

	2017年度 第2四半期(実績)		2018年度 第2四半期(実績)			
	(百万円)	売上高 比率	(百万円)	売上高 比率	前年度比 (百万円)	前年度 比率
売上高	12,038		11,839		-199	-1.7%
営業利益	123	1.0%	168	1.4%	45	36.6%
(為替差損益)	66	-	120	-	54	-
経常利益	138	1.1%	251	2.1%	113	81.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	44	0.4%	203	1.7%	159	361.4%

為替レート	2017年度 第2四半期 実績	ドル=111.04円 ユーロ=126.58円 ※ドルは期中平均レート、ユーロは期中平均実績レート
	2018年度 第2四半期 実績	ドル=110.26円 ユーロ=129.49円 ※ドルは期中平均レート、ユーロは期中平均実績レート
	(参考)2017年度 想定レート	ドル=110円 ユーロ=120円

※為替レートは前月末と当月末で毎月洗い替えを実施しています。

Ⅱ-2. 売上高と受注高について

➤ **161期上期**におきましては、IMTS 2018(アメリカ・シカゴ)をはじめとした展示会に積極的に出展することにより、販売拡大に取り組みました。

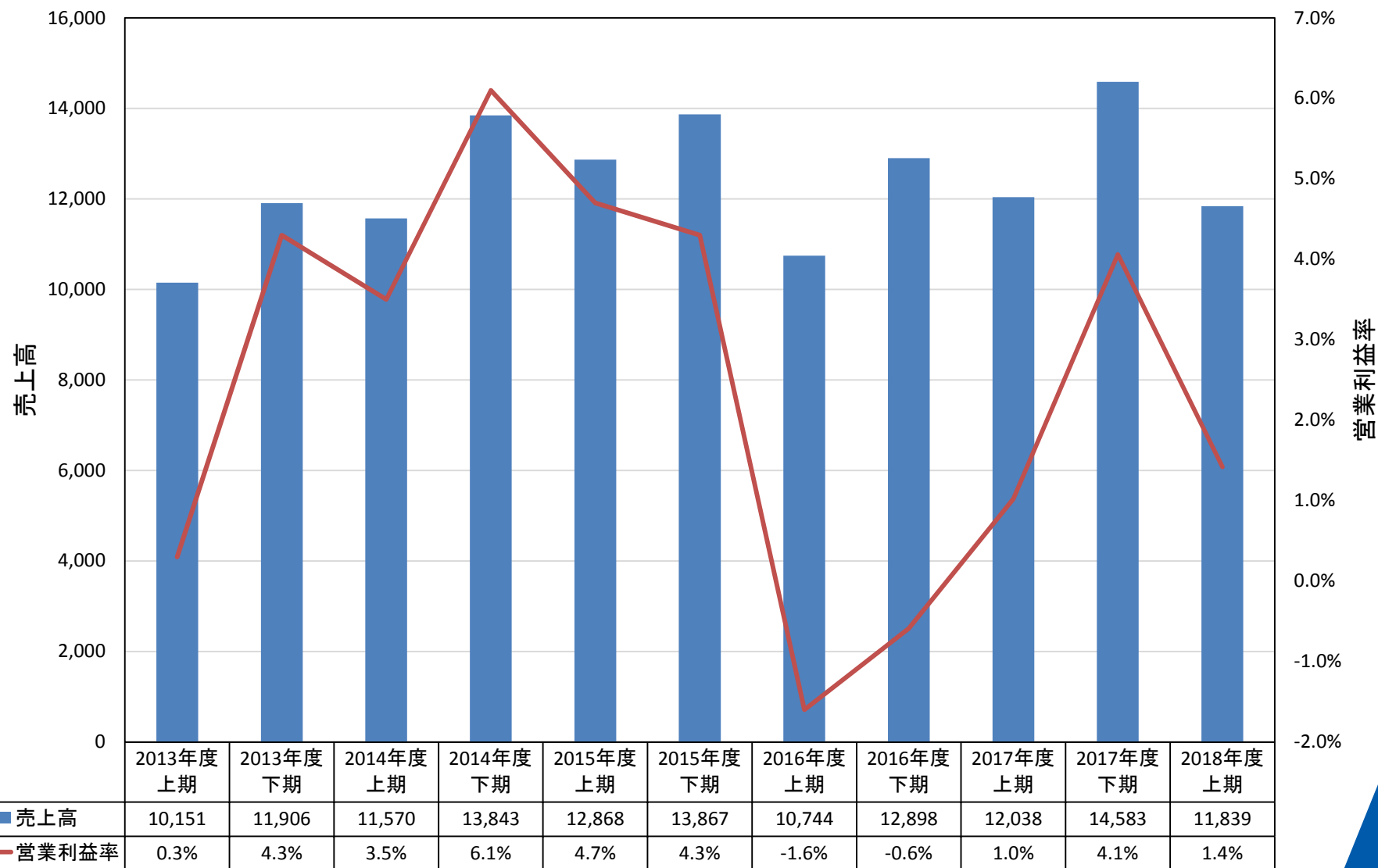
国内市場においては、引き続き設備投資意欲が活況であり、それに加えてものづくり補助金による受注が増加しました。海外では、市況と比較して北米の伸びが小さくなっていますが、欧州・アジアにおいては順調に受注を伸ばしています。また、定価の見直しにより収益の改善を図りました。しかしながら、好調な市況ゆえに部品の調達が困難な状況が続いており、計画通りに生産が進まず、結果的に売上、利益ともに公表値未達となりました。

➤ **161期下期**につきましても、受注環境は国内・海外ともに好調を維持するものと予想されます。しかしながら、調達環境に関しては顕著に改善されるとは考えにくい為、部品納期を考慮した計画を策定し、出来ることを無駄なく効率的に運用することで、安定的な生産体制を構築します。

また、競合が存在しないアフターサービスや保守部品の販売強化に注力することで、さらなる利益確保を図ります。

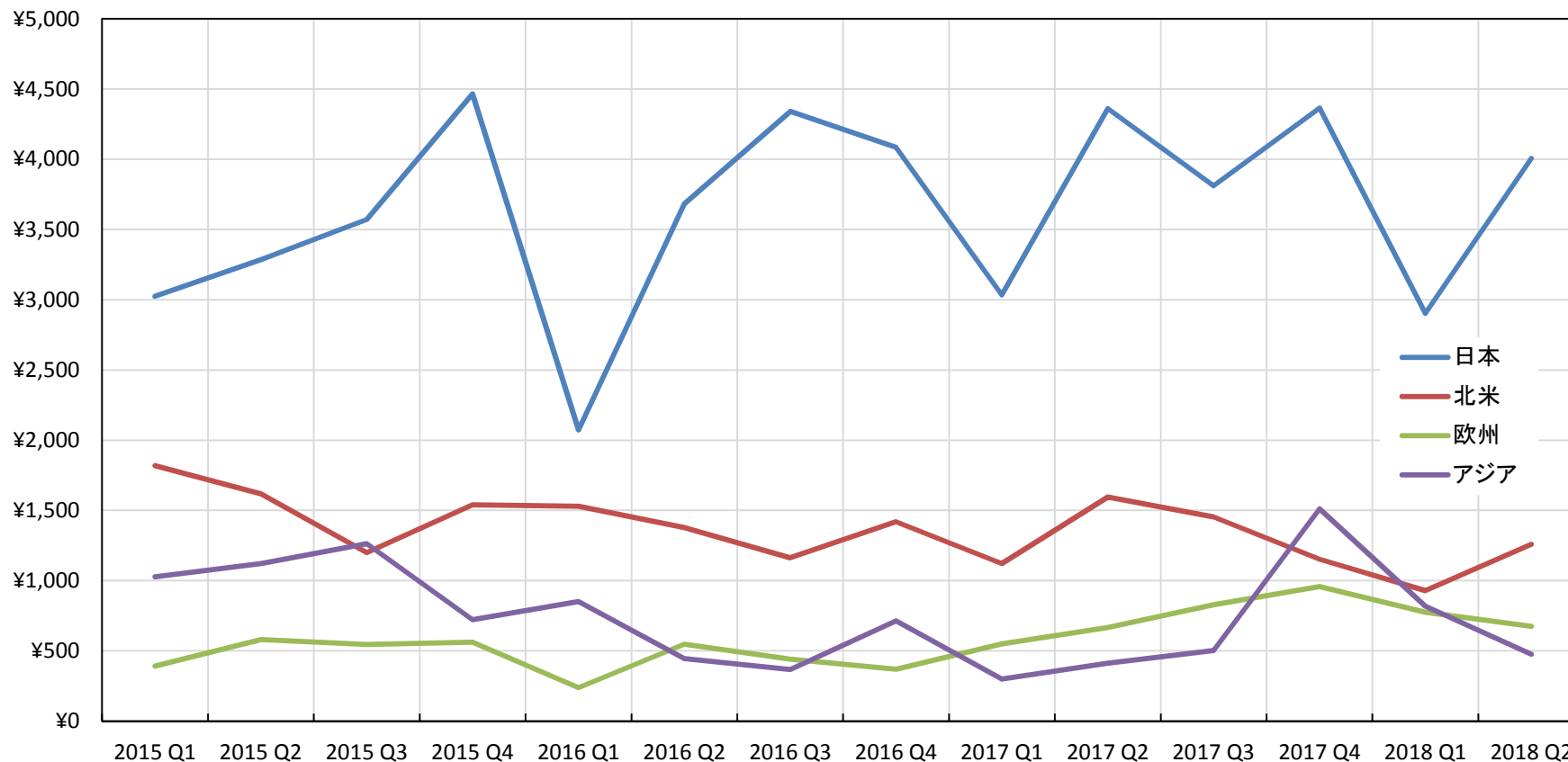
Ⅱ-3. 売上高・営業利益率の推移

(百万円)



Ⅱ-4. 地域別売上高推移

(百万円)

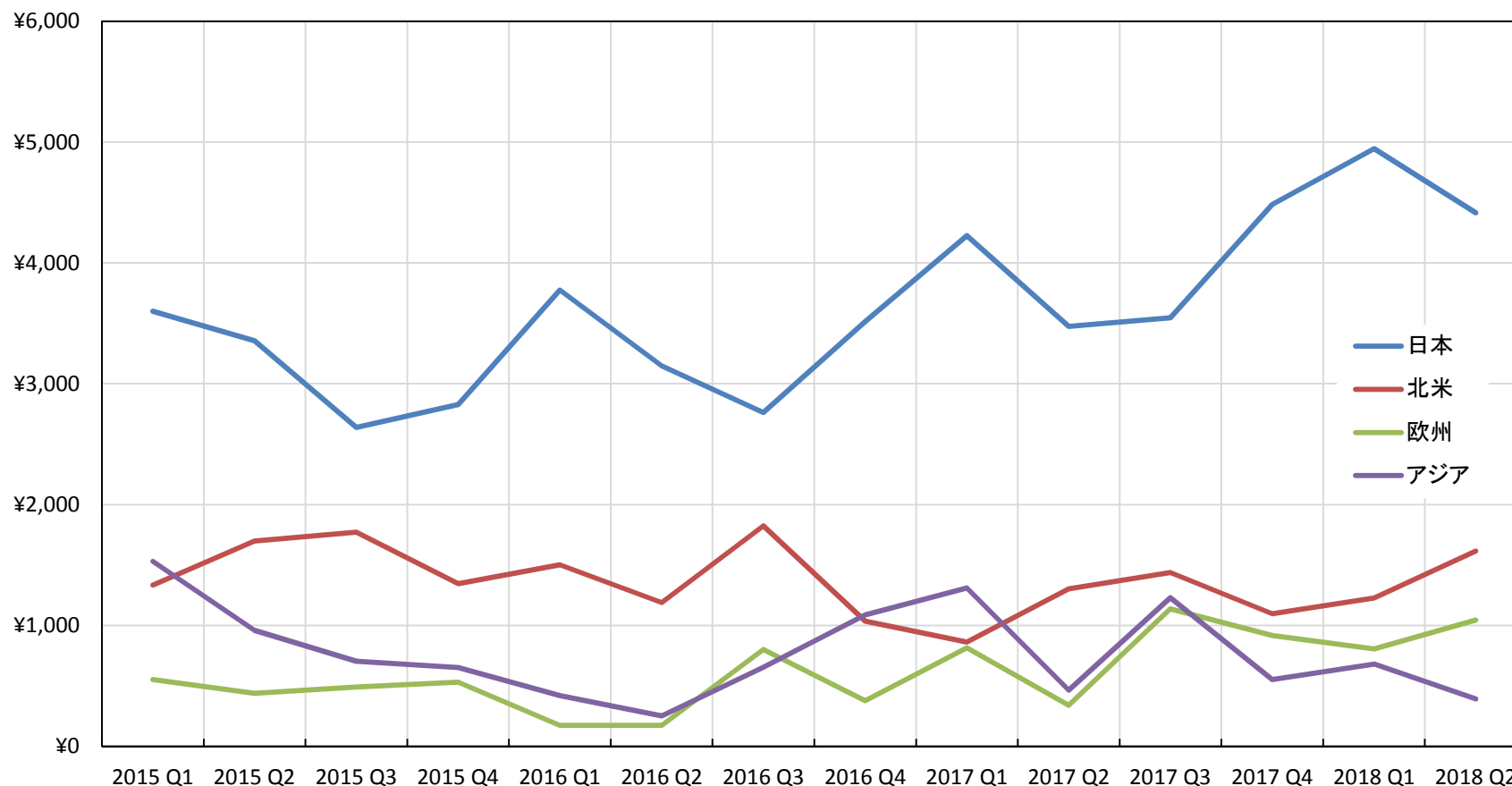


【参照為替レート】※ドルとバーツは期中平均レート、ユーロは想定レート。

	2015年度 Q1	2015年度 Q2	2015年度 Q3	2015年度 Q4	2016年度 Q1	2016年度 Q2	2016年度 Q3	2016年度 Q4	2017年度 Q1	2017年度 Q2	2017年度 Q3	2017年度 Q4	2018年度 Q1	2018年度 Q2
ドル	121.43円	122.30円	121.47円	115.35円	108.06円	102.45円	109.42円	113.6円	111.09円	111.03円	112.98円	108.3円	109.0円	111.5円
ユーロ	130.00円	130.00円	130.00円	130.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	125.00円	125.00円
バーツ	-	-	-	-	-	-	-	-	3.24	3.33	3.43	-	3.44円	3.42円

Ⅱ-5. 地域別受注高推移

(百万円)



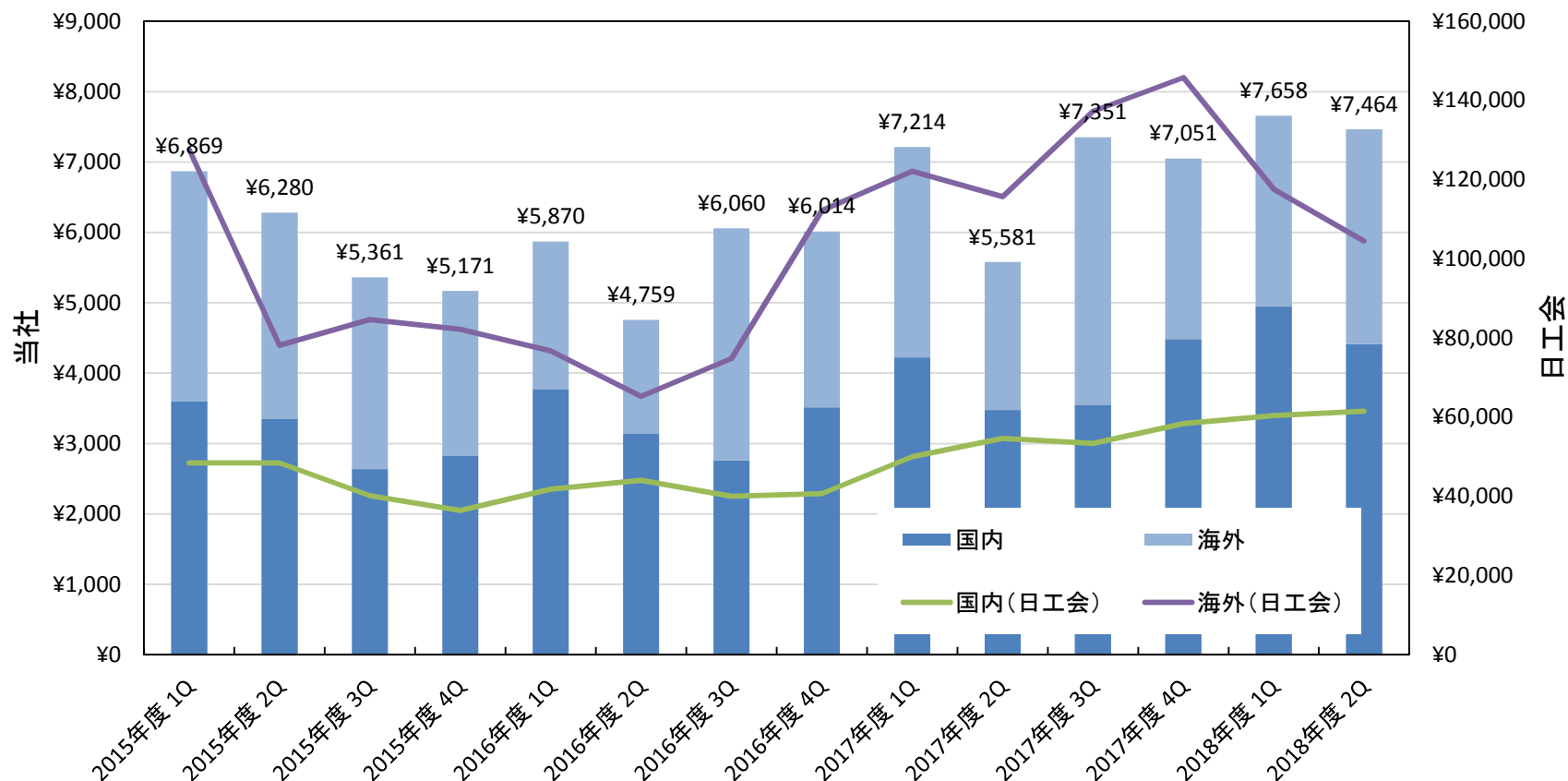
【参照為替レート】※ドルとバーツは期中平均レート、ユーロは想定レート。

	2015年度 Q1	2015年度 Q2	2015年度 Q3	2015年度 Q4	2016年度 Q1	2016年度 Q2	2016年度 Q3	2016年度 Q4	2017年度 Q1	2017年度 Q2	2017年度 Q3	2017年度 Q4	2018年度 Q1	2018年度 Q2
ドル	121.43円	122.30円	121.47円	115.35円	108.06円	102.45円	109.42円	113.6円	111.09円	111.03円	112.98円	108.3円	109.0円	111.5円
ユーロ	130.00円	130.00円	130.00円	130.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	125.00円	125.00円
バーツ	-	-	-	-	-	-	-	-	3.24	3.33	3.43	-	3.44円	3.42円

Ⅱ-6. 受注高の推移 ※工作機械のみの受注高

(百万円)

日工会は、立横マシニングセンタ、フライス盤の受注金額を集計(日工会統計資料より) (百万円)



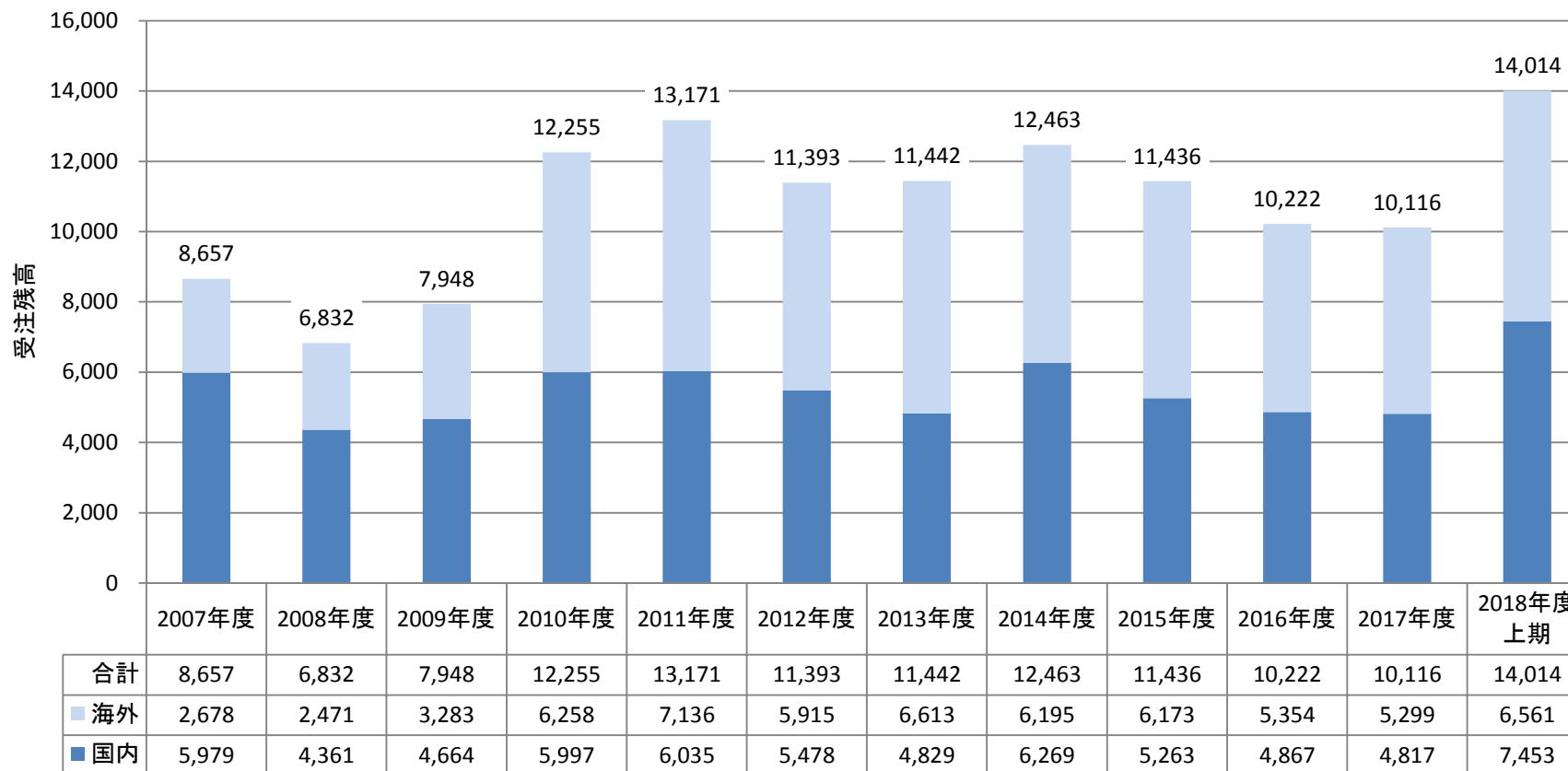
【参照為替レート】※ドルとバーツは期中平均レート、ユーロは想定レート。

	2015年度 Q1	2015年度 Q2	2015年度 Q3	2015年度 Q4	2016年度 Q1	2016年度 Q2	2016年度 Q3	2016年度 Q4	2017年度 Q1	2017年度 Q2	2017年度 Q3	2017年度 Q4	2018年度 Q1	2018年度 Q2
ドル	121.43円	122.30円	121.47円	115.35円	108.06円	102.45円	109.42円	113.6円	111.09円	111.03円	112.98円	108.3円	109.0円	111.5円
ユーロ	130.00円	130.00円	130.00円	130.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	125.00円	125.00円
バーツ	-	-	-	-	-	-	-	-	3.24	3.33	3.43	-	3.44円	3.42円

※受注は想定レートと実績レートを組合せて算出。

Ⅱ-7. 受注残高の推移 ※工作機械のみの受注残高

(百万円)



【参照為替レート】 ※ドルとパーツは期中平均レート、ユーロは想定レート。

	2015年度 Q1	2015年度 Q2	2015年度 Q3	2015年度 Q4	2016年度 Q1	2016年度 Q2	2016年度 Q3	2016年度 Q4	2017年度 Q1	2017年度 Q2	2017年度 Q3	2017年度 Q4	2018年度 Q1	2018年度 Q2
ドル	121.43円	122.30円	121.47円	115.35円	108.06円	102.45円	109.42円	113.6円	111.09円	111.03円	112.98円	108.3円	109.0円	111.5円
ユーロ	130.00円	130.00円	130.00円	130.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	120.00円	125.00円	125.00円
パーツ	-	-	-	-	-	-	-	-	3.24	3.33	3.43	-	3.44円	3.42円

※受注は想定レートと実績レートを組合せて算出。

Ⅱ-8. 業績予想

- ・2018年5月15日に公表した業績予想を変更しておりません。
- ・業績予想を踏まえ、年間配当は20円を予定しております。

	2017年度(実績)		2018年度					
			第2四半期(実績)		通期(予想)			
	(百万円)	売上高 比率	(百万円)	売上高 比率	(百万円)	売上高 比率	前年度比 (百万円)	前年度 比率
売上高	26,621		11,839		27,000		379	1.4%
営業利益	715	2.7%	168	1.4%	1,100	4.1%	385	53.8%
経常利益	493	1.9%	251	2.1%	1,000	3.7%	507	102.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	352	1.3%	203	1.7%	800	3.0%	448	127.2%
為替レート	2017年度 実績レート		ドル=111.07円 ユーロ=130.31円 ※ドルは期中平均レート、ユーロは期中平均実績レート					
	2018年度 想定レート		ドル=107円 ユーロ=125円 バーツ=3.3円					

注1) 為替レートは前月末と当月末で毎月洗い替えを実施しています。

注2) 当社は、平成29年10月1日を効力発生日として普通株式10株を1株の割合で株式併合を行っております。

Ⅱ-9. 2018年度第2四半期のトピックス

		トピックス
2018年	4月	<ul style="list-style-type: none">・ G2goプロジェクト発足・ 生産推進プロジェクト発足・ 財務改革プロジェクトを新体制で発足・ 鋳物合弁会社をタイに設立
	5月	
	6月	<ul style="list-style-type: none">・ 第160回定時株主総会開催・ 株主向け会社説明会開催
	7月	<ul style="list-style-type: none">・ 東日本プライベートショー開催・ 中部・西日本プライベートショー開催
	8月	
	9月	<ul style="list-style-type: none">・ IMTS 2018へ出展・ 営業改革プロジェクト発足・ VB53α 発表

Ⅱ-9. 2018年度第2四半期のトピックス (財務改革プロジェクトを新体制で発足) OKK

2018年度の財務改革プロジェクトでは、収益圧迫の一因と思われる以下の費目に焦点を絞り、対策の検討、関連部門への提言及び実施状況のトレースを行っております。

1. 運送費

- **現状** 原則、顧客の実費負担である運送費を多くの案件において全額回収できていない
- **対策**
 - 顧客への運用費用の提示から運送業者への支払いまでのプロセスを見直し
 - 回収状況を管理・監視する体制を構築

2. 外注加工費

- **現状** リーマンショック以降、外注加工費は増加傾向である一方、労務費は減少しておらず収益を圧迫
- **対策**
 - 委託費用の予実管理強化
 - 委託業務の内容精査
 - 業務毎の委託費用の妥当性の検証

Ⅱ-9. 2018年度第2四半期のトピックス (営業改革プロジェクト発足) OKK

生産力向上プロジェクトに続き、収益力向上を図るべく、営業本部を中心とした営業改革プロジェクトを発足。

◆目的

営業利益率8% (中長期経営計画ファーストステージ目標) を実現するための営業戦略の立案・実行

◆スケジュール

9月
・ 詳細設計

10～11月
・ 分析・課題の整理

12月
・ 計画策定

2019年1月～
・ 計画実行

◆取り組み内容

現在、コンサルタントの支援のもと、製造原価、運賃、為替影響、子会社利益等の各種コストを機種毎の本体売上と紐付けることにより、**機種毎の実質的な利益率**の分析を進めております。分析結果を活用し、**アフターサービス強化、海外展開見直しを含めた営業戦略**を策定し、実行していきます。

(イメージ)



Ⅱ-9. 2018年度第2四半期のトピックス(IMTS2018へ出展)



世界三大”工作機械およびその関連機器等の展示会”の1つであるIMTSに今回も出展しました。今回は3軸・4軸加工機しか使用してこなかったユーザーをターゲットに、5軸加工機のメリットを押し出す展示を行いました。期間中、多くのお客様にご来場いただき大口の受注を獲得出来ました。

- ◆開催場所：アメリカ・シカゴ
- ◆開催期間：2018年9月10日～9月15日
- ◆来場者数：185社、299名



- ◆出展内容：
HMX-8000, VG5000, VCX350+ワークストッ
カータイプのロボットによる自動化セル、
5軸加工機全機種の3Dモデル可動ア
ニメーションのモニター展示

Ⅱ-9. 2018年度第2四半期のトピックス(VB53α発表)



2010年の発表以来、国内およびアジア新興国を中心に大好評頂き500台以上を販売したVB53をモデルチェンジ。更なる高精度を追究した**VB53α**を発表致しました。



【基本コンセプト】

金型の仕上加工を対象に、高品位加工を目指し、使い易さと保守性に優れたコストパフォーマンスの高いマシニングセンタを提供する。

- ①操作性・作業性の向上
- ②環境負荷の低減
- ③高速・高品位加工の実現

【主な改良点】

周波数、主軸端振幅を改善。

さらに、OKK独自の環境熱変位補正機能“ソフトスケールCube”を標準搭載。

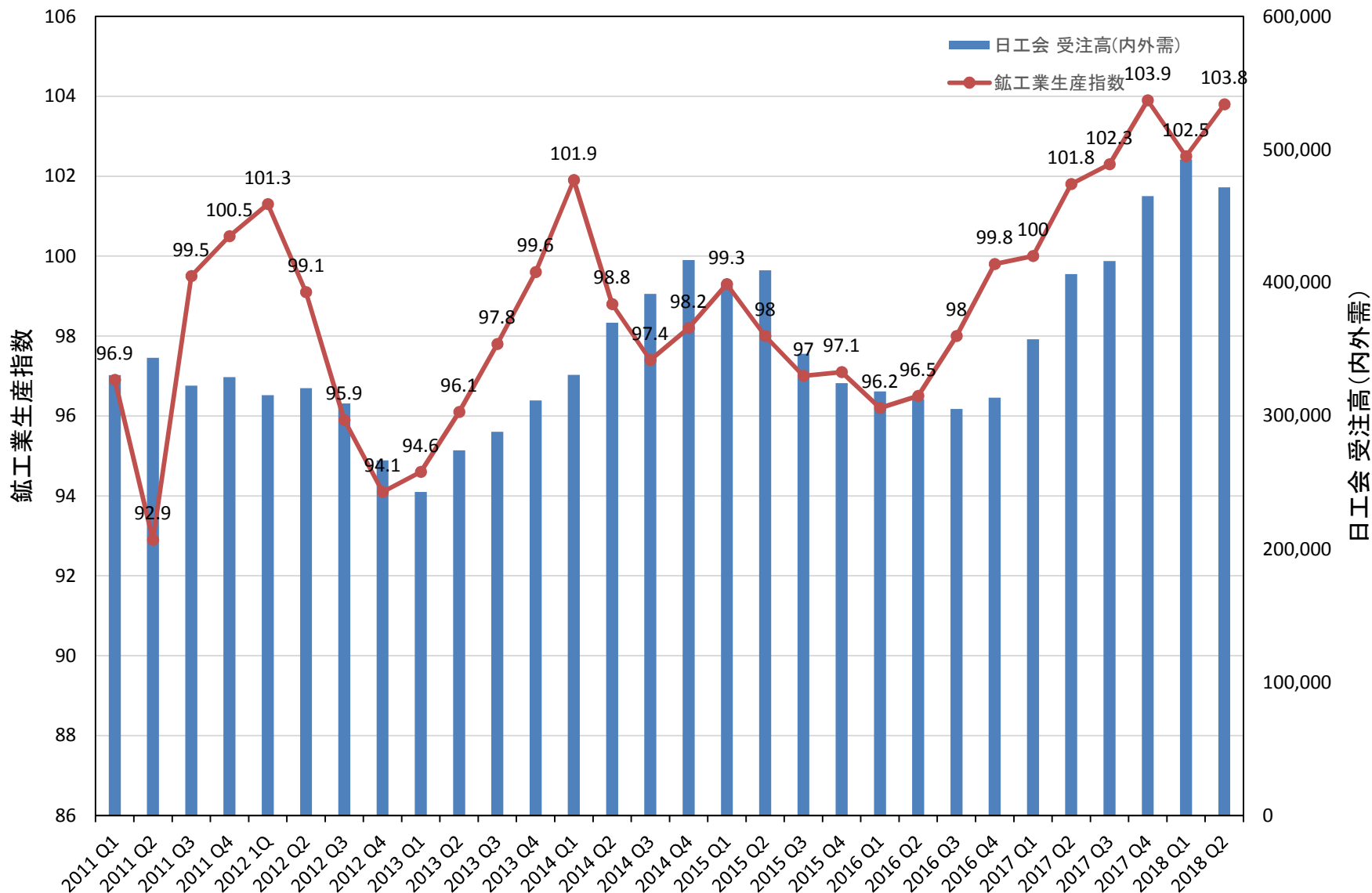
金型や精密部品向けに高品位な加工を実現致します。

Ⅲ-1. 鈇工業生産指数と日工会 受注高との関係(暦年)



季節調整済指数【四半期】
(2010年=100.0)

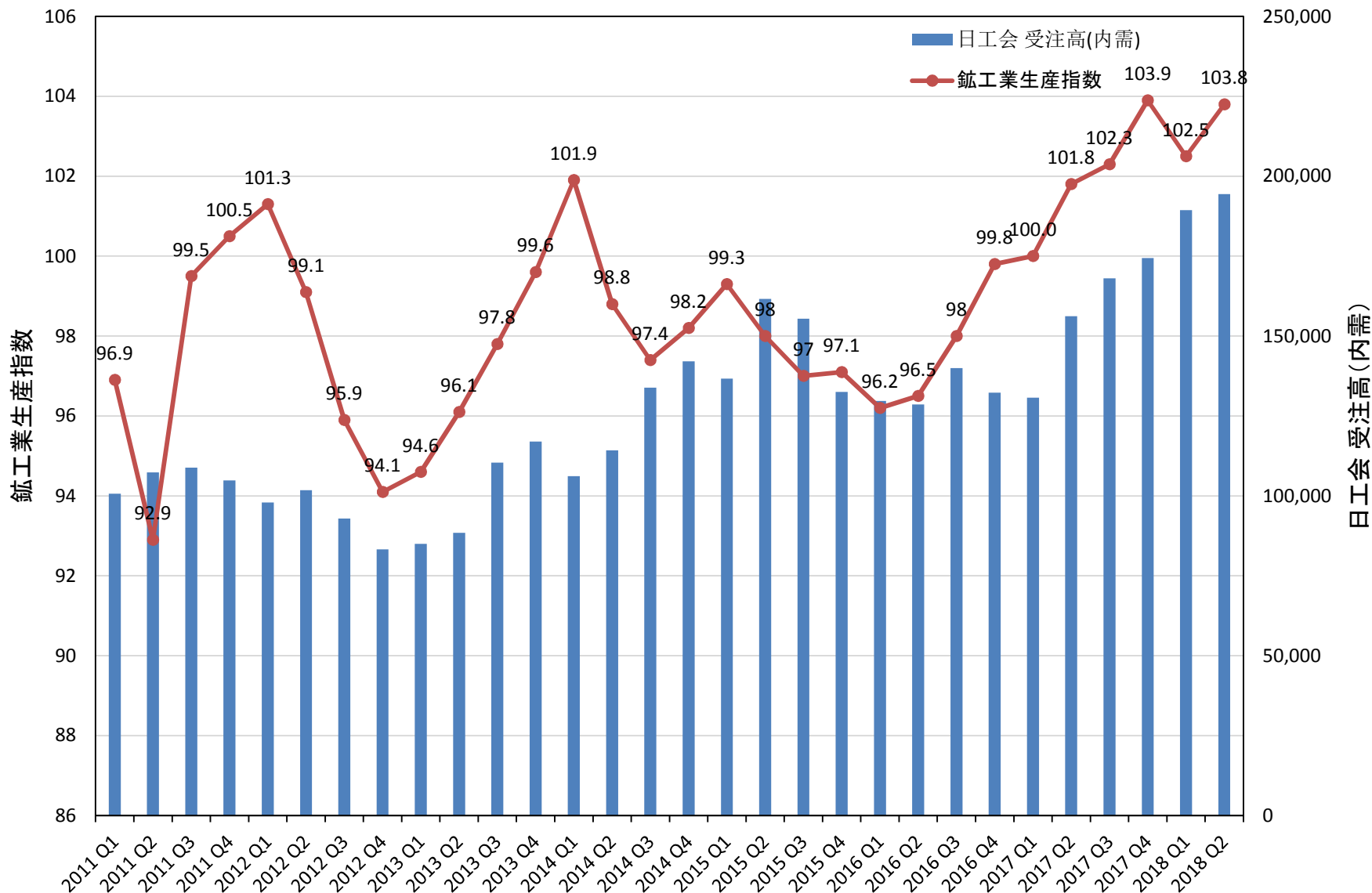
(百万円)



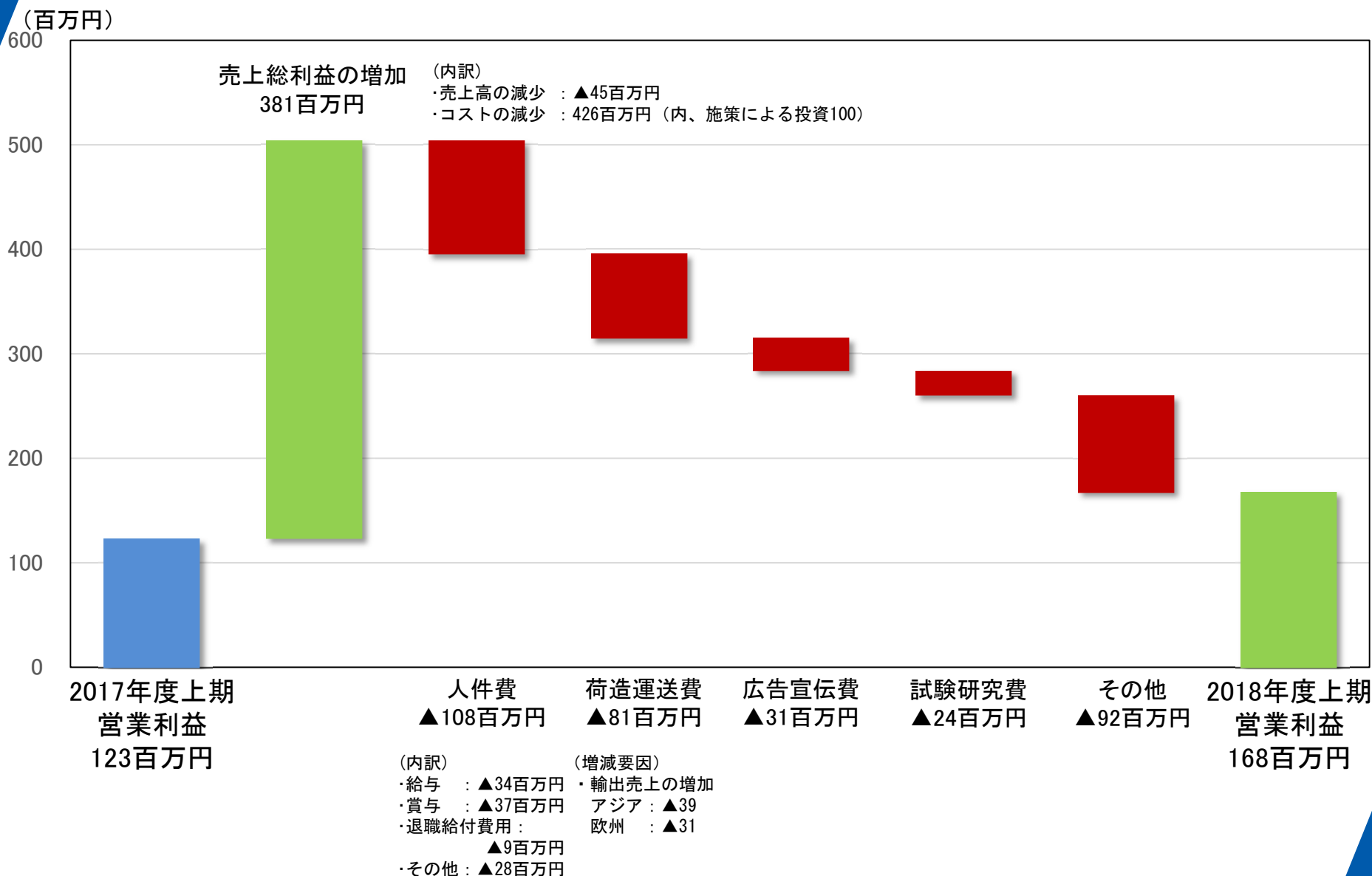
Ⅲ-2. 鋳工業生産指数と日工会 内需との関係(暦年)

季節調整済指数【四半期】
(2010年=100.0)

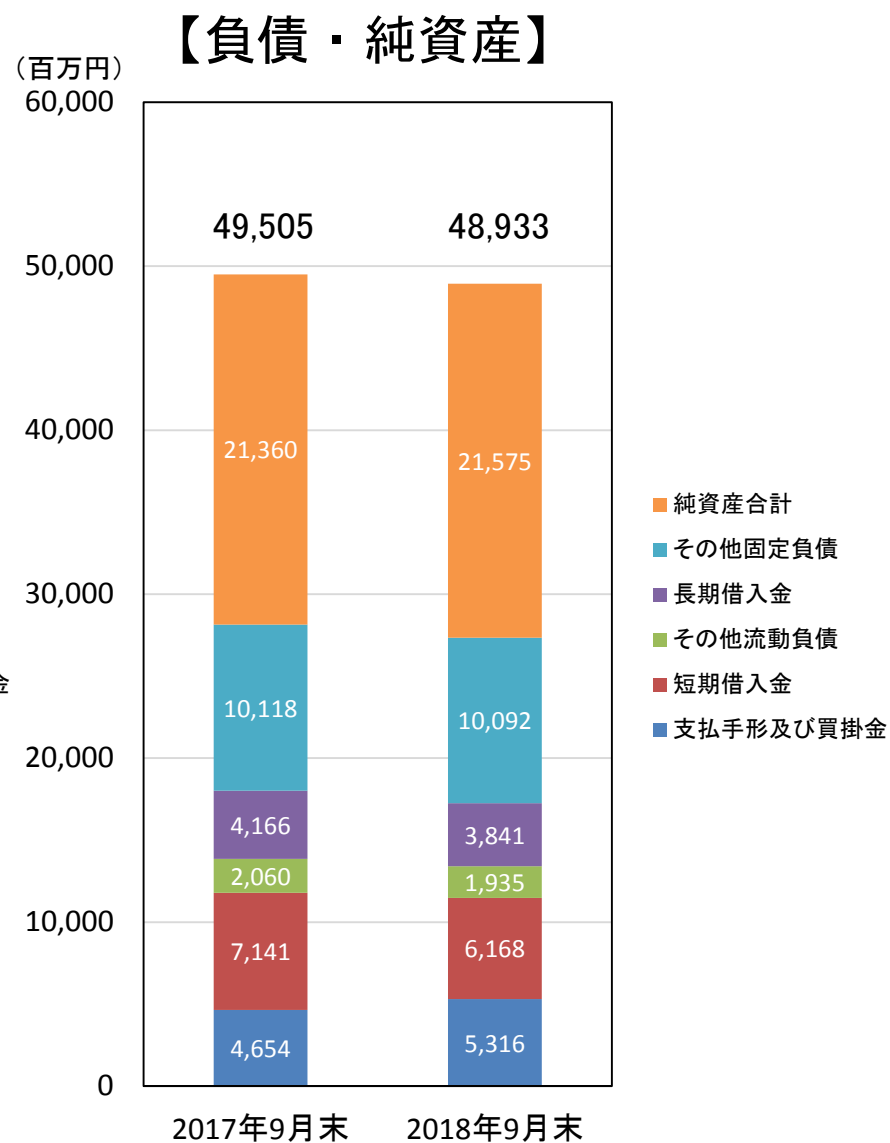
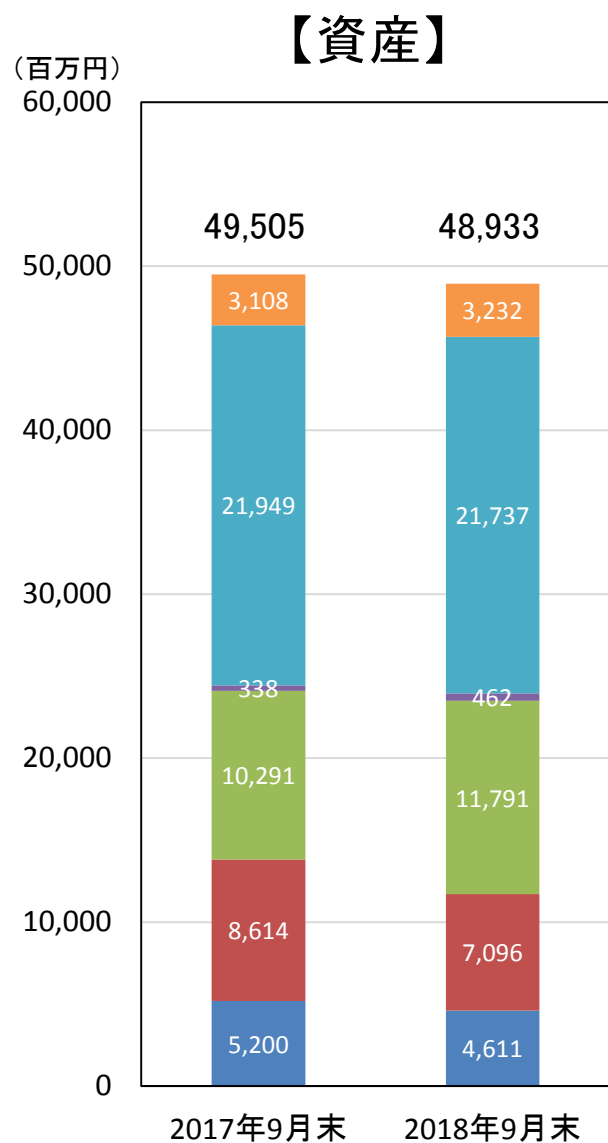
(百万円)



Ⅲ-3. 営業利益 増減要因



Ⅲ-4. 貸借対照表

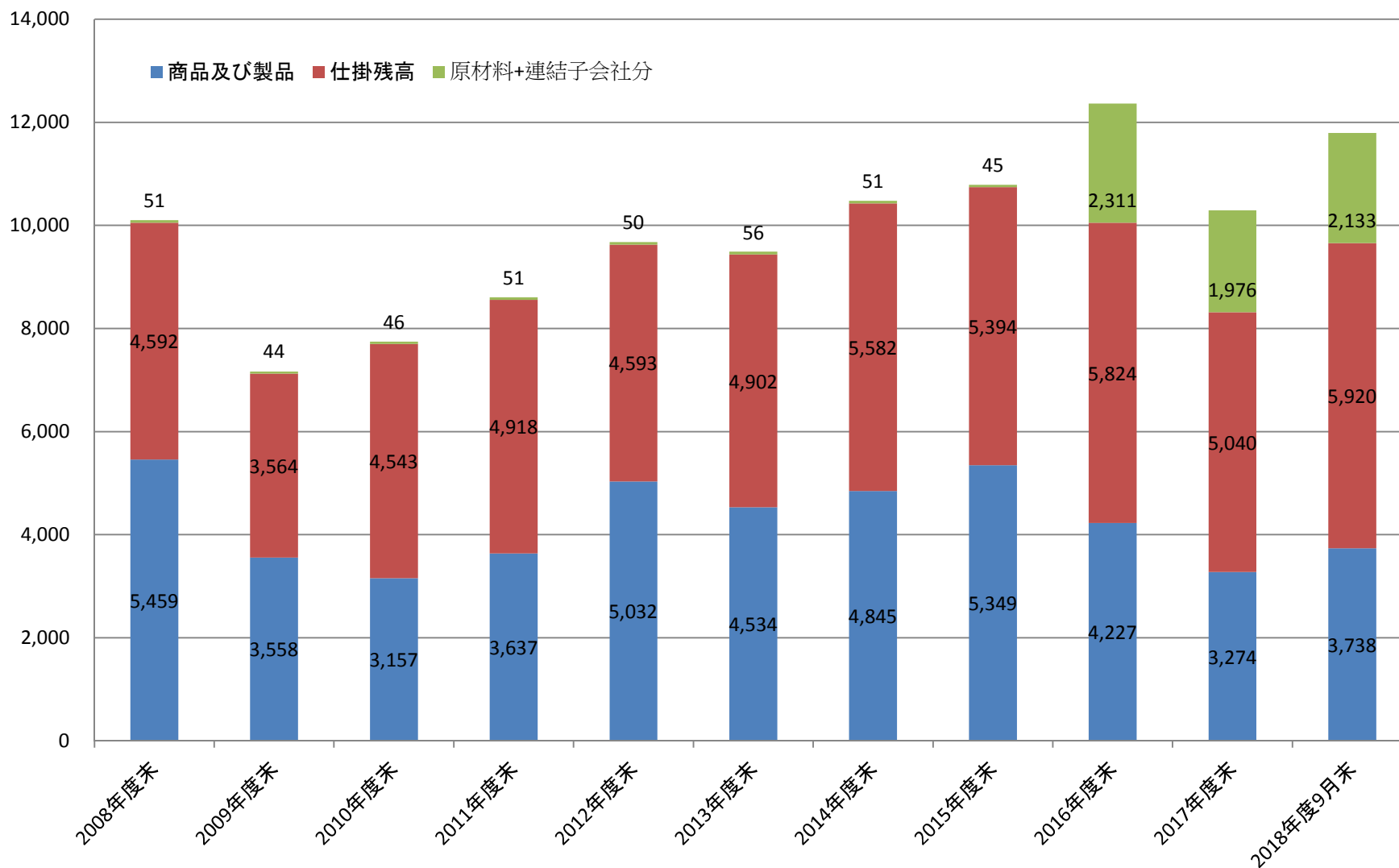


Ⅲ-5. キャッシュ・フロー

	2017年度 上期	2017年度 通期	2018年度 上期	2018年度上期の主な内訳 (百万円)
① 営業活動による キャッシュ・フロー	1,314	3,533	1,322	<ul style="list-style-type: none"> ・売上債権の減少額：1,577 ・仕入債務の増加額：663 ・減価償却費：455 ・たな卸資産の増加額：-1,317
② 投資活動による キャッシュ・フロー	-211	-445	-310	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出：-224
③ 財務活動による キャッシュ・フロー	-1,402	-2,601	-1,621	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の純減額：-955 ・長期借入金の返済による支出：-888 ・長期借入による収入：500
④ 現金及び現金同等物に係る 換算差額	5	-3	20	
⑤ 現金及び現金同等物の増減額 ⑤=①+②+③+④	-294	484	-589	
⑥ フリーキャッシュ・フロー ⑥=①+②	1,102	3,088	1,012	
⑦ 現金及び現金同等物の 期首残高	3,865	3,865	5,130	
⑧ 新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	781	781	-	
⑨ 現金及び現金同等物の 四半期末残高 ⑨=⑤+⑦+⑧	4,353	-	4,541	
⑩ 現金及び現金同等物の 期末残高 ⑩=⑤+⑦+⑧	-	5,130	-	

Ⅲ-6.棚卸資産推移

(百万円) 棚卸資産の内訳別金額推移



※新基幹業務システムへの移行により、2016年度9月末から「商品及び製品」「仕掛残高」「原材料+連結子会社分」の内訳が変更になっています。

メ モ

OKK



重切削、高剛性の百年品質

OKK株式会社

〒664-0831

兵庫県伊丹市北伊丹8-10

TEL. 072 (782) 5121 FAX. 072 (772) 5156